

看護師の家族支援に対する現状

3階東病棟

○ 山元 千芙美 吉永 有莉恵 土居 理恵 中谷 淑子

研究目的

看護師の家族支援に対する現状を明らかにし、家族支援の推進を検討する。

研究の枠組み

家族支援とは「健康問題をもつ人の家族成員に対し、自分の健康を保持できるように働きかけること」であり、看護師の「家族の問題を捉える力（情報収集・アセスメント）」と「家族の問題に介入する力」を家族支援の構成要素と捉え研究の枠組みとした。

研究方法

一般病棟看護師に質問紙調査を行い、有効回答は197名（78.8%）であった。調査項目は家族の問題を捉える力を20項目（クロンバック α 係数0.9199）、家族の問題に介入する力を13項目（クロンバック α 係数0.9184）とし信頼性を確認した。妥当性の判断については因子分析を行った。分析は基本統計量、t検定・ピアソンの積率相関係数を用いた。

倫理的配慮

研究の趣旨、研究への参加は自由意思であることを紙面上で説明、回収をもって同意を得た。質問紙は無記名とし、得た情報は研究目的以外に使用しない。個人が特定されないように統計処理し結果を公表する。

結果・考察

1. 問題を捉える力の平均は3.53に対し、問題に介入する力の平均は2.81であった。
2. 家族の問題を捉える力では20項目中11項目が全体の平均よりも低い。特に「家族の問題解決方法・対処方法」を捉える力は低かった（平均3.17）。しかし75.5%の看護師は家族への情報収集はできていると認識していた。
3. 問題に介入する力では「トラブルへの対処方法」への介入が低かった。トラブルに関する介入手段を講じられない、または実行に移しにくいことがその要因と思われる。トラブルへの対処方法では、「対処方法強化への援助」と「家族関係の調整」、「家族の役割調整」、「家族の目標・発達課題への援助」の3項目と相関関係がみられた。

結論

1. 家族支援の現状として「問題を捉える力」よりも「問題に介入する力」が低かった。
2. 問題を捉える力について看護師の認識と実際の間で矛盾を来していた。
3. 問題を捉える力を強化する為には、「家族の問題解決方法・対処方法」の情報収集を行なうことが重要である。
4. 家族の関係や役割の調整を行い、家族の目標・発達課題への介入をすることで家族のトラブルへの対処方法を高めることができる。

〔平成18年12月2・3日 第26回日本看護科学学会学術集会（神戸市）にて示説発表〕